



### 日米親善に貢献 庄内藩士 高木 三郎

1841年に庄内藩士として江戸に生まれ、勝海舟の門に入り蘭学を学んだ。1869年に外務省留学生に選ばれ、語学を学ぶためNB市ラトガース大学に入学。卒業後は、サンフランシスコ副領事、ニューヨーク総領事など駐在外交官として活躍し、郵便条約を締結させるなど日米親善に貢献した。この高木三郎とNB市のつながりと鶴岡ロータリークラブ（以下RC）とNBRCの交流を契機とし、姉妹都市盟約が締結された。



6月10日、本市と米国ニューブランズウィック（以下NB）市の姉妹都市盟約が60周年を迎えました。

近年、海外旅行や留学が身近になったり在住外国人が増えたりするなど、外国人との交流の機会が増えています。本市は、NB市をはじめとする草の根交流を生かし、国や言語、生活習慣等の違いを越えた心と心の触れ合いにより、お互いを認め、共に生きていく国際感覚や広い視野を身に付けた人材の育成等、国際化に取り組んでいます。今回はNB市との交流の経過や鶴岡・ニューブランズウィック友好協会（以下友好協会）が取り組む記念企画を紹介します。

新型コロナウイルス感染症の影響で直接の交流が難しい中で、新しい形の交流が始まっています。

#### ◎問合せ

本所食文化創造都市推進課  
☎ 25・2111 内線527

1960年

1994年

### 学生相互交流の開始

鶴岡の中学生8人が10日間にわたって学校訪問やホームステイ、NB市・ワシントンDC・ニューヨーク市等の見学を通して交流を深めました。その後、2001年の同時多発テロやイラク戦争により交流が見送られた時期もありましたが、現在まで、計11回訪問団を派遣しています。



本市訪問団としてNB市を初めて訪問した中学生たち

### 姉妹都市盟約締結

RC国際会議に出席する小花盛雄鶴岡RC会長を介し、鶴岡市長がNB市長に友好都市としての交流希望の意思を伝えました。これをきっかけに6月10日、盟約が締結されました。

1982年

### 初の親善訪問

NB市長の招待により、鶴岡市長をはじめ9人が訪問。また、1984年にはNB市長ら一行6人が本市を訪れました。



交流のあゆみ



N B市は米国ニュージャージー州のほぼ中央、ニューヨーク市から南西に約50km離れた所に位置します。建国以前の1681年に起源し、米国の中で最も古い市の一つです。

市内には2つの大学病院や米国最大規模の医科歯科大学、州立がんセンターなど医療機関が集まるほか、製薬会社ジョンソン&ジョンソンの本社と国際本部が置かれ、国内屈指の健康福祉都市となっています。また、国内最大規模の州立大学であるラトガース大学を中心に多くの公立・私立学校があり、人口の半数以上を学生が占める学園都市でもあります。

N B・鶴岡姉妹都市協会から届いた姉妹都市の健康と交流の再開を願うメッセージ



Dear Friends  
鶴岡の皆さんへ



ジェームズ・ケイヒル市長

今年、鶴岡・ニューブランズウィック姉妹都市盟約60周年を迎えたことをうれしく思います。

両市の絆は、1869年に高木三郎氏がラトガース大学で英語を学ぶためにN B市にお越しになったことを起源とし、150年以上となりました。

高木氏の足跡を学ぶ機会となっている学生の相互交流については、今もなお優先される取り組みとなっています。私たちの強い友情によるこ

の相互交流によって、子供たちの国際理解が深まり、さらにお互いの文化が尊重され信頼関係が築かれています。

鶴岡市のリーダーシップ及び鶴岡・N B友好協会とN B・鶴岡姉妹都市協会の努力に感謝しています。安全に過ごせる時期になり、姉妹都市60周年のお祝いができることを楽しみにしています。共に戦っていきましょう。

コロナ禍でも  
心と心で交流

2019年 学生相互交流の再開

3月に本市中学生ら8人が8年ぶりにN B市を訪問。また、11月にはN B市から6人の中学生が12年ぶりに来鶴し、市内の観光や中学校見学、歓迎会等を通して市民との交流を深めました。

2010年 盟約50周年

鶴岡市長を団長とする19人がN B市を訪れ、盟約継続を確認。同年11月には9人の訪問団が来鶴し、記念式典に出席したり、ケイヒル市長が講演を行ったりしました。



N B市での50周年記念式典のために集まった、かつて鶴岡に訪問した学生たち

2011年 義援金を受取

N B市、N B R Cより東日本大震災の義援金として約160万円を頂戴。市では「あしなが東日本大震災・津波遺児募金」へ送金しました。

2002年 義援金を送付

前年に米国で起きた同時多発テロ。復興と被災者支援に充ててもらったため、鶴岡市民から寄せられた約180万円の義援金をN B市へ送りました。

平成31年3月、第11次訪問団として本市から中学生ら8人を8年ぶりに派遣。訪問した2人にミドルスクール（日本における中学校）での交流やホームステイ等を通して感じたことなどを聞きました。

## 海外の人たちに日本の文化を広めたい



私は英語を話すことが好きでいろいろなことにチャレンジしたいと思っています。様々な人に出会える国際交流にはとても関心があり、参加しました。

訪問中は鶴岡と外国の文化の違いを肌で感じる事ができ、中でも大きく違っていたのが食文化。鶴岡では学校給食発祥の地として、小さな頃から食べ物を大切にすることや感謝しながら頂くことを学んできました。

鶴岡南高校（1年）  
渡邊 柚 さん

したが、NB市のミドルスクールには食べ残り専用のごみ箱があり、食べ物に対する気持ちの違いを強く感じました。

将来は客室乗務員になり海外で生活し、現地の文化を取り入れながら日本文化のすばらしさを多くの人に広めたいです。そのためにも、鶴岡の文化をもっと勉強したいと思います。

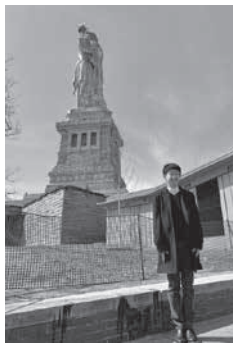


**ホ**ームステイでは料理の大きさに驚き。新しいことに挑戦したい人には海外と積極的に交流してほしいです。

## 英語とスポーツを通して国と国をつなぎたい

海外の文化に興味があり、また自分の英語がどれだけ本場で通用するのか試してみたい気持ちがありました。

交流中、同年代の学生が積極的に自己アピールをする姿を見て、日本との違いを感じました。英語でも日本語でも相手を理解し、自分の気持ちを伝えることの大切



**訪**問をきっかけに「国と国をつなぐ仕事をしたい」という将来の夢を具体的にイメージできるようになりました。

さに気づき、ジェスチャーを交えながら積極的に話しかけると、最初は通じなかった英語が伝わるようになりました。それからは部活動や生徒会活動の中でも自分の思いが相手に伝わるよう、工夫することを心掛けています。

将来はスポーツ選手の健康管理等を行うスポーツドクターとして、海外のプロチームで働きながら国際交流を続けたいです。

鶴岡第五中学校（3年）  
吉田 壮一郎 さん



市民の方が関われるようにしました。マスクや千羽鶴、動画の制作には多くの方に参加いただき、姉妹都市のことを知ってもらうきっかけになりました。

企画を進める中で一番うれしかったのは、国際貢献に意欲がある20代・30代の若者が趣旨に賛同し、集まってくれたことです。これからは彼らの世代が中心となって交流を進め、60年にわたる交流の歴史を10年後、20年後へとつないでほしいです。

### ニューブランズウィック市における 新型コロナウイルス感染症の感染状況 (令和2年9月13日現在)

■人口	55,676人 <sup>※</sup>
■累計感染者数	1,883人
■死亡者数	80人

※2019年のデータ（米国政府ホームページより）

# ～コロナ禍での交流～ 姉妹都市盟約60周年企画！

新型コロナウイルス感染症の影響で交流が難しい中、今までの形とは異なる新たな交流が始まっています。応援動画の制作等、友好協会が取り組む「山形から世界へ ワン ハート プロジェクト ONE HEART project」を紹介します。

## ONE HEART project

### ① 手作りマスクの送付

感染が拡大するNB市で感染防止に役立ててもらおうと、第1弾として布マスクとシルクマスクを計60枚、第2弾として鶴岡高等養護学校の生徒会などの市内各種団体から寄せられた170枚の手作りマスクを送りました。



### ② 千羽鶴の送付

NB市に向けてお見舞いと応援の気持ちを伝えるため、市内各所の施設や団体、中学校等の協力のもと集まった1,803羽の千羽鶴。マスクと共に荘内神社で祈とうを受けた色とりどりの鶴が、海を渡って思いを届けました。



### ③ 応援動画の制作 『ワンハート～ミライヘノアイコトバ～』

動画撮影や音楽が得意な若者が集まって応援動画を制作。動画撮影グループとBGMを収録するバンドグループに分かれて活動しました。鶴岡市内で撮影し、多くの市民が出演した動画には英語の字幕を付けることで、遠く離れたNB市民の方にも応援のメッセージが伝わるようにしています。

動画は友好協会のYouTubeチャンネルで公開されています。



← 動画はこちらから  
友好協会公式YouTubeチャンネル

NB市の感染状況を知ったとき、何か自分にできることはないかと考え同世代の仲間に声を掛けました。姉妹都市のことを知らない市民の方もいると思いますが、この企画をきっかけに両市の交流や鶴岡にも興味を持ってもらいたいです。



友好協会幹事  
長南 雄太 さん



友好協会会長  
佐藤 公力 さん

姉妹都市のことを知らない方にも見てほしい！

## これからの交流は若者が主役に

新型コロナは日本だけでなく世界中の問題です。この企画を始めたとき、特に感染が拡大していたのが米国でした。互いに大変な状況ですがコロナに負けず、姉妹都市同士の心と心の結び付きで共に乗り越えていきましょうという思いで活動しています。

企画は協会の会員だけでなく、できるだけ多くの